

緒方洪庵誕生地

堀江幸司(文・写真)

東京女子医科大学図書館



「緒方洪庵誕生地」案内板

岡山県足守(あしもり)。備中国賀陽郡足守は、江戸時代に足守藩(2万5千石)の政治・文化・経済の中心地として栄えた城下町であった。

足守川の川沿いにある近水園(おみずえん)(岡山県指定名勝)は、池泉(ちせん)回遊式庭園として知られる足守藩主木下家の庭園。冬の雪景色、春の桜はことによく、岡山県下の名所のひとつとなっている。庭園内の鶴島には木下利玄(1886-1925, 大正期の歌人)の歌碑が建つ。この近水園から足守川を渡った対岸の鍛冶山の山裾に「緒方洪庵誕生地」(岡山県指定史跡)がある。山紫水明の地である。洪庵は、この地に文化7年(1810)7月14日、父佐伯左衛門(44歳)、母キャウ(35歳)の三男として生まれた。

この「緒方洪庵誕生地」(生家の屋敷跡)は、昭和2年(1927)の秋ごろ地元の吉備郡醫師會の発起で起こった洪庵遺跡保存会が中心になって公有地とした場所。

この一角に「洪庵緒方先生碑」が建っている。その碑陰には次のような撰文がある。

緒方洪庵先生ハ杏林(キョウリン)ノ偉材ナリ。文化庚午七年(一八一〇)七月十四日備中足守藩士佐伯氏ニ生レ出テ、遠祖ノ姓緒方を稱ス。夙(ツト)ニ醫ニ志シ蘭學ヲ修メ篤學(トクガク)ニシテ卓識(タクシキ)ナリ。初メ居ヲ大阪ニト(ボク)シ刀圭(トウケイ)ノ業ニ從フヤ常ニ濟生ヲ念トシ種痘術ノ普及ニ努メ專ヲカヲ育英ニ注キ書ヲ著シ學ヲ講ス。及門ノ士千ニ上リ名聲大ニ揚ル。後幕府ノ召ス所トナリ居ヲ江戸ニ移シ文久癸(一八六三)亥三年六月十日五十有四歳ニシテ其地ニ歿ス。而シテ先生門下多士儕々(タシサイサイ)音ニ刀圭ノ術ニ於テ先生ノ衣鉢(イハツ)ヲ傳ヘタルミナラス或ハ明治維新ノ風雲ヲ叱咤(シッタ)シテ王政復古ノ大業ニ參與シタル者アリ。或ハ日本文化ノ指導ニ任シテ其開發ニ多大ノ貢獻ヲナシタル者アリ。皆共ニ先生感化ノ及フ所ナリ。亦偉大ナラスヤ。今茲(コトシ)先生歿後六十四年吉備郡醫師會發起トナリ有志ヲ四方ニ募リ碑ヲ建テ、先生誕生ノ地ヲ不巧ニ傳ヘントス。先生ノ令孫緒方銈次郎氏並ニ本家ノ後嗣佐伯立四郎氏其舉ヲ贊シ佐伯氏故宅ノ跡ヲ讓與シ併セテ先生ノ臍緒産毛(ヘソノヲウブゲ)及ヒ元服ノ遺髮ヲ其碑下ニ埋メシム。此地此碑即是ナリ。京都帝國大學總長荒木博士碑面ニ題シ余其所以ヲ碑背ニ誌ス。鍛冶山ノ麓足守川ノ邊山紫水明ノ處是レ偉人誕生ノ靈地ナリ。庶幾(コヒネガハク)ハ此地ニ來リ此碑ヲ仰キ先生ノ遺徳ヲ贊シ其感化ニ欲セントスルノ士萬世ニ亘リテ絶エサランコトヲ。

昭和二年十月
岡山縣醫師會長 藤原鐵太郎 謹誌



敷地内に建つ「洪庵緒方先生碑」

昭和3年(1928)5月27日に举行された除幕式には、碑面に題した荒木京大総長をはじめとして林慶應義塾々長、田中岡山医大学長など、多数の参加者があつた。遺族総代として緒方銈次郎、緒方収二郎も参加している。式後、近水園内の吟風閣(ぎんぷうかく)(京都御所 <仙洞御所・中宮御所>の普請の残材で築造された茶室風の建物)で記念撮影が行われたという。

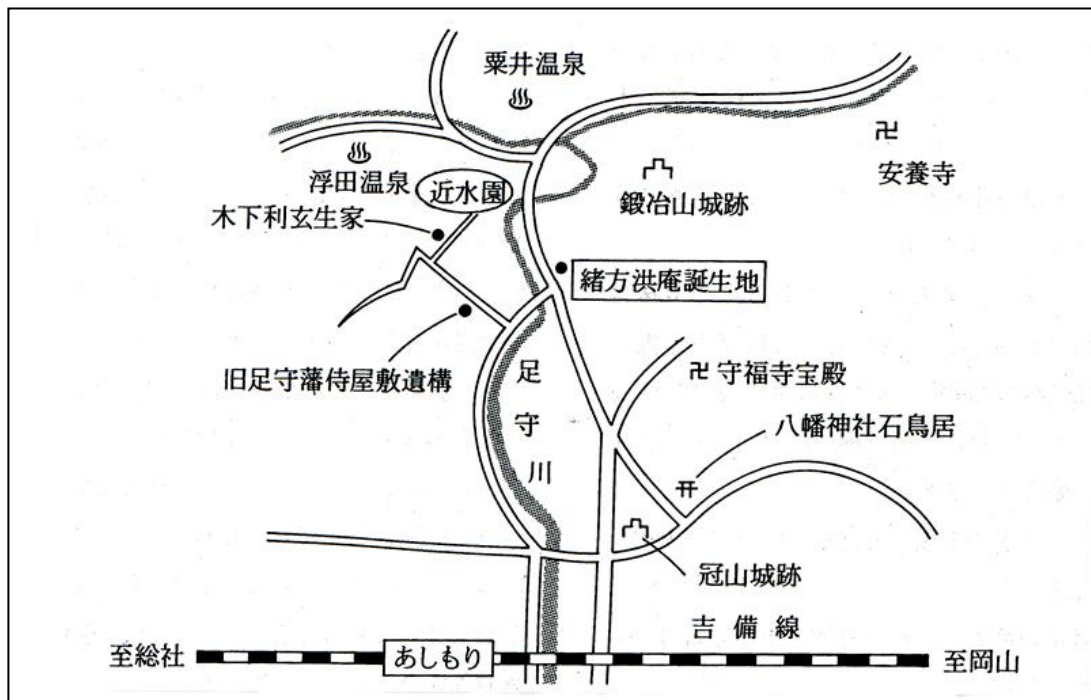
「緒方洪庵誕生地」に入った左手には「産湯の井」が残っている。また近水園内の「足守文庫」(岡山市立歴史資料館足守文庫)には洪庵の墨跡・遺品も収蔵展示されている。ベルリン大学内科学教授フーフェランド(扶氏)が著した内科書のオランダ語板を訳した『扶氏経験遺訓』(1857-1861)や、留学先の長崎から持ち帰り第13代足守藩主木下利恭公に献上した寒暖計などである。この寒暖計は日本最古と伝わる。

洪庵は文久2年(1862)8月19日、53歳のとき幕府の奥医師(将軍家の侍医)となるために江戸に着く。それから約10カ月後の翌文久3年(1863)6月10日医学所頭取屋敷で突然の大咯血のため急死。遺体は駒込高林寺(現住所/東京都文京区向丘2-37-5)に葬られた。

春を待つ吉備路の風はまだ冷たかったが、取材には好都合の日和であつた。



近水園内のマリア燈籠と岡山市立歴史資料館足守文庫



緒方洪庵誕生地付近略図(堀江幸司作成)

(取材に際して, なにかとご配慮頂いた川崎医大の松本稲郎, 湊泰子, 樋口明美の各氏に感謝いたします)

(平成21年9月29日 個人リポジトリ登録)